

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 10月 2日

東京大学での所属学部・研究科等:	人文社会系研究科	学年(プログラム開始時):	修士1
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	フローニンゲン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 化粧品、下着メーカー)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

フローニンゲン大学文学部Arts, Culture and Media専攻に交換留学生として留学

留学した動機

卒業後アーツマネジメントの分野で活躍するために、今回の交換留学の目的は、価値ある芸術作品を見定めるための自分の判断基準を確立し、その価値を相手に伝わるよう発信する能力を身につける。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	修士1	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	8月~	2017年	7月	
	修士1	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	修士2	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	修士2	年生の	4月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			18	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			10	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2016年	4月入学	2018年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	3年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

学部生のときは運動会水泳部の活動が忙しく長期留学する余裕がなかったため、学部三年の終わり頃に修士に入ってから留学しようと決めた。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

交換留学の選考書類の準備、トビタテ留学JAPANの申請、卒論執筆、院試対策の時期がかぶってしまったためとても慌ただしかった。奨学金の応募に関しては、研究室の先生方や所属の研究科・学部の事務の方に相談し、書類の添削をしていただいたことが採用に繋がったと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

フローニンゲン大学経由でオランダに申請した(日本人はビザではなく滞在許可residence permitをもらう)。手続きには全体で3ヶ月程度かかった。受取はオランダに到着してからZwolle駅の近くにあるイミグレーションセンターで行った。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

市販薬のパラセタモール(風邪薬)を一度使用したが、体に合わず日本人の友だちに薬を頂いてしまったので、常備薬は余裕を持って持参したほうがいい。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学経由で東京海上日動の海外旅行保険に加入した。留学後に超過分の払い戻しの手続きをしたが、スムーズでとてもよかった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

通年の科目の単位を夏学期分だけもらうために、大学院窓口で書類をいただき授業担当の先生方の捺印をいただいた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

①に書いた理由でIELTSの対策がぎりぎりになり、一回しか受けることができなかった。少しでも留学を検討している場合、思い立ったときにとりあえず一回受けてみたほうがいいなと思った。IELTS対策にはイングリッシュ・チューターというスカイプ英会話を利用した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

生理用品やコンタクトレンズ保存液はオランダにきちんとしたものが売っているので持参なくても大丈夫そうだった。英語を話す機会はスカイプ英会話(DMM英会話など)を利用してできるだけ多く確保するべき。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Academic English for Internatioanl Students	10(ECTS)				
Introduction to Gender and Sexuality	10(ECTS)				
Arts Policy	10(ECTS)				
Cultural Entrepreneurship I	10(ECTS)				
Ethnicity, Culture and Politics	5(ECTS)				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

殆どの授業で東大の倍以上の読書課題を出され、しかも全部英語なので最初の2ヶ月はついていくのに必死だった。一学期間を通じて取り組むグループワークがどの授業でも課されたことも東大との違いの一つだと思う。印象に残っているのはArts Policy(修士向け)でのオランダ人学生2人とのグループワークで、ここでは資料調査とスコットランドのアーティストについてスカイプを用いたインタビュー調査を行い、最終的に運営上の問題点と改善案を授業内でプレゼンテーションをした。

また、フローニンゲン大学外でも、1月と2月に一週間ずつイギリスのリーズ大学にてジェンダーとアートに関するセミナーに参加した。また、7月上旬にInterpretive Policy Analysis Conferenceに参加し、日本の自治体レベルの芸術支援についてパネル発表を行った。(写真:同じパネルで発表したオックスフォード大学の学生と)

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

授業は一週間に5~6コマ(各2~3時間)だった。授業時間外は、授業で出された課題をするほか、学会準備、美術館・ギャラリー、アートフェスティバルの見学などをしていった。

④学習・研究面でのアドバイス

Academic English for Internatioanl Studentsという授業は、レポートの書き方やアカデミックな言葉遣い、引用の仕方などを体系的に教えてもう事ができ、ライティング、プレゼンテーション能力の向上にかなり役立ったので、英語力に不安がある場合受講をおすすめしたい。授業中は無理して積極的に発言する必要はないが、黙っているといないものとして扱われるので、何か思ったことがあったら必ず伝えるようにしていた。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

始めの3ヶ月はスピーキングとリスニングが苦手で授業についていくのに苦労した。授業でのグループワークや寮の友人との交流を通じて英語で話すことに慣れていき、また仲良くなっていくと発言につまっても相手が熱心に聞いてくれるようになるので、遊びに誘われたら積極的に参加するべきだと思った。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

フローニンゲン大学から交換留学の受け入れ許可が出た後、直接フローニンゲン大学文学部からメールが来て、学生用アパートを予約するウェブサイトが案内された。はやめに予約しないと部屋がなくなって現地で自力で探すことになるようで、最初の3ヶ月間ほど家賃の高いAirbnbなどに宿泊している日本人の友人が数人いた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候…天気が一日にコロコロ変わる。よく雨が降る。(写真上:春はとても天気がよかったです。5月頃の Groningen)
大学周辺…市街地にキャンパスがあったので、大学周辺に大きなマーケットがあり、新鮮で安い食材を購入できた。(写真下:マーケットのフルーツコーナー)運河が多く街並みもきれい。
交通機関…フローニンゲン市内は自転車で移動可能。他の都市に行く際はNS(国鉄)やArrivaなどの電車を利用する。どちらの電車もグループチケットを使用すると、国内であれば一日往復7ユーロで移動できる。
食事…外食が高かったので自炊が多かった。アジア食材のスーパーが市内に一つあったので、やや高いがよく利用した。
お金の管理…フローニンゲンでING bankというところの口座を作成した(大学のイントロダクションウィークで口座の作り方を案内してもらえる。)ユーロを日本の銀行口座からカードでおろし、ING bankのデビットカードに入れて使用していた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常にいいが、自転車泥棒の被害が多発しているので注意が必要。病院は予約が必要らしく、診察まで一週間待たされた友人もいた。冬場は日照時間が少なく気分が憂鬱になりがちなので、寮や授業の友達と話して気分を紛らわせるなどしていた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

10~13万円
家賃…45000円
食費…25000円
交際費…25000円
生活雑貨…5,000円
その他(旅行など)…30000円

・留学に要した費用総額とその内訳

160万円
航空券…11万円
家賃…45000円×11ヶ月
食費…25000円×11ヶ月(外食含む)
交際費…25000円×11ヶ月
生活雑貨…5,000円×11ヶ月
学費(東大)…50万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

トビタテ留学JAPAN
支給額…月16万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

UNICEF Student team Groningenに2月から6月まで参加し、スポーツに関連した活動を通じたファンドレイジングを行った。(写真上:ユニセフでの活動中)
アンネフランクの家(博物館)の日本語音声ガイドのアンネ役をやらせていただき、4月頃に実際にリリースされたものを聞くことができ、とても貴重な経験になった。
週末や4月のイースター・キングスデイ休暇中は、主に寮のフラットメイトと外出することが多かった。(写真下左:フラットメイトとバーベキュー、写真下右:3月末ころキューケンホフのチューリップ・ガーデンにて)クリスマス休暇はドイツに住むクラスメイトの家を訪問し、また同じ奨学金を利用している友人とともにイタリアへ観光にいった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

文学部内にMobility Officeという留学生用窓口があり、履修や書類の手続きのことで何度か相談に行った。また、文学部のHarmonie Building内に大阪大学の欧州センターがあり、阪大の学生でないにも関わらずフロンテングでの暮らしのコツを教えていただいたり、学生のお別れ会を開いてくださったりと、大きな精神的支えであった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は市街地中心部と文学部建物内のものをよく利用した。普段は混雑していないが、テスト2週間前ころから朝イチで行かないと席がなくなってしまう。PCは全てMacだった。食堂は各建物内にあるが、あまり安くないのでほとんど利用しなかった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

--

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

海外でのキャリアをより身近に考えることができるようになったが、同時に日本との就職活動の方法の違いが著しいこともわかったため(履歴書とCVやCover letterの違いや、応募から採用までが日本のように体系化されておらず、個人個人が好きなタイミングで応募する事が多いことなど)、日本にいながら海外で就職するための準備をするのは大変そうだという印象も受けた。

また、オランダだけなのか他のヨーロッパ諸国でもそうなのか不明だが、夫婦ともに週四で働き、その日仕事が終わりのほうが子供の面倒を見るといったように、核家族でも仕事と家庭が両立できるような仕組みができているようであり、日本でもそのような働き方ができたらいいなと思った。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

--

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

人種、宗教、性など様々な点で多様な人々が住むオランダという国で学んだことで、自分の考えを客観的に考える際の「他の人ならどう考えるか」という視点を充実させることができた。これが社会生活を営む上でも研究においても、今回の留学の最も重要な収穫であると思う。今後も日本国内外の様々な問題に目を向け、他者に配慮し問題を解決するための感受性と知識を豊かにしていきたい。

②留学後の予定

10月半ばから1月半ばまでスペインのギャラリーでインターンシップを行い、帰国後修士論文執筆準備と就職活動を行う予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

金銭的な問題を解決する手段も奨学金などいろいろあるので、迷ったらぜひチャレンジしてみてください。特に私のように留学前はほとんど海外経験がなかったという方にとっては、驚きの連続でかけがえのない経験になると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

フローニンゲン大学のHP (<http://www.rug.nl/>)

留学大図鑑～先輩たちの留学体験談～ (<https://tobitate.jasso.go.jp/zukan/>)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

